

歌言部之

大正  
代子同

六





石大臣家詩合

九條殿下兼實  
治承三年十月十八日



題

霞

花

子規

月

紅葉

雪

祝

忘

曉

述懷

哥人

左方

女房

季經御片

皇太后宮大夫入道

隆信御片

行頼朝臣

良澄

寂蓮

右方

大貳入道

経家朝臣

常陸朝臣

資忠

右因

師光

俊惠

別當局

皇嘉門院  
女房

源三位朝政

基補朝臣

仲経

昭昭

丹後

右府女房

判者

皇太后宮大夫入道釋阿

一番霞

左橋

皇太后宮大夫入道

やうたつて雲のくらくらふくふくせも雲もあふうつとれよきり

右

大貳入道

たちこもる雲もあもろぬいふりよあし志印は浦乃浦  
左の山乃雲もあはれぬいふりよあし志印は浦乃浦  
又もつとれ雲もあはれぬいふりよあし志印は浦乃浦  
よやゆゑむ浦の松のまはりの氣を眺望うとり  
あふいふもあはれぬいふりよあし志印は浦乃浦  
六十余ふり中みちかふりの浦はゆるあふいふり  
とそいふもあはれぬいふりよあし志印は浦乃浦  
そりいふもあはれぬいふりよあし志印は浦乃浦  
しつとあはれぬいふりよあし志印は浦乃浦



左 お

女房

まね人のまもりかたのあはれをいさよふにまはりまね

右

大蔵入る

まよひつらひのききうりしものあはれをいさよふにまはりまね  
左房首領はま事程けつり但上あせの白御信よ  
ちくやゆるむむちう一筆のあはれをいさよふにまはりまね  
しつる御信をいさよふにまはりまねのあはれをいさよふにまはりまね  
いよあはれをいさよふにまはりまねのあはれをいさよふにまはりまね  
他事たふらんあはれをいさよふにまはりまねのあはれをいさよふにまはりまね  
うらう一ちいよのあはれをいさよふにまはりまね

五番

左 お

後行おは

まね人のまもりかたのあはれをいさよふにまはりまね

右

右因法師

まね人のまもりかたのあはれをいさよふにまはりまね  
左房首領はま事程けつり但上あせの白御信よ  
ちくやゆるむむちう一筆のあはれをいさよふにまはりまね  
しつる御信をいさよふにまはりまねのあはれをいさよふにまはりまね  
いよあはれをいさよふにまはりまねのあはれをいさよふにまはりまね  
他事たふらんあはれをいさよふにまはりまねのあはれをいさよふにまはりまね  
うらう一ちいよのあはれをいさよふにまはりまね

六番

左 孫

寂蓮

まね人のまもりかたのあはれをいさよふにまはりまね

右

顯昭

七番 郭 公  
ぬもやたふ後 一 ぬもよふりりり孫  
よふもあふ 一 ぬもよふりり孫  
ぬもやたふ後 一 ぬもよふりり孫  
ぬもやたふ後 一 ぬもよふりり孫  
ぬもやたふ後 一 ぬもよふりり孫  
ぬもやたふ後 一 ぬもよふりり孫

七番 郭 公

千載

た お

皇太后宮大史入道

淡路後朝臣

た お 皇太后宮大史入道 淡路後朝臣

八番  
一 ぬもやたふ後 一 ぬもよふりり孫  
ぬもやたふ後 一 ぬもよふりり孫  
ぬもやたふ後 一 ぬもよふりり孫  
ぬもやたふ後 一 ぬもよふりり孫  
ぬもやたふ後 一 ぬもよふりり孫  
ぬもやたふ後 一 ぬもよふりり孫

九番

行頼朝臣

た

奉補朝臣

た 奉補朝臣  
ぬもやたふ後 一 ぬもよふりり孫  
ぬもやたふ後 一 ぬもよふりり孫  
ぬもやたふ後 一 ぬもよふりり孫  
ぬもやたふ後 一 ぬもよふりり孫  
ぬもやたふ後 一 ぬもよふりり孫  
ぬもやたふ後 一 ぬもよふりり孫

うらぬろのころんく又あはくせん事そつくとせん作  
たて猪

九番 月

九 右

陸行おる

うらぬろのころんく又あはくせん事そつくとせん作

右

丹後

うらぬろのころんく又あはくせん事そつくとせん作

うらぬろのころんく又あはくせん事そつくとせん作

うらぬろのころんく又あはくせん事そつくとせん作

うらぬろのころんく又あはくせん事そつくとせん作

うらぬろのころんく又あはくせん事そつくとせん作

うらぬろのころんく又あはくせん事そつくとせん作

裏書云法住寺殿内大臣乃時の子舎よ山月

糸乃まはるるのころんく又あはくせん事そつくとせん作

十番

九 右

別當局

うらぬろのころんく又あはくせん事そつくとせん作

右

道因法師

うらぬろのころんく又あはくせん事そつくとせん作

うらぬろのころんく又あはくせん事そつくとせん作

うらぬろのころんく又あはくせん事そつくとせん作

うらぬろのころんく又あはくせん事そつくとせん作

うらぬろのころんく又あはくせん事そつくとせん作

うらぬろのころんく又あはくせん事そつくとせん作

うらぬろのころんく又あはくせん事そつくとせん作

十一番

左

後慈法師

てい国乃... (vertical text)

右橋

源三位朝政

... (vertical text)

ひりと... (vertical text)

十二番 紅葉

左お

後慈法師

目と魚... (vertical text)

右

源三位朝政

秋の... (vertical text)



たはしき... 乃由文字乃... 乃由文字乃... 乃由文字乃...

十三番

九番

新抄

大

皇太子

たはしき... 乃由文字乃... 乃由文字乃... 乃由文字乃...

十四番

大

皇太子

新抄

たはしき... 乃由文字乃... 乃由文字乃... 乃由文字乃...

右

大武入道

新... 左... 右... 乃... 切韻... 明士定次雌雄歟

十五番 雷

左

皇太后之方丈入道

續古今

...

右

右因法師

船... 左... 戴安道... 十六番

十六番

左

後通法師

... 歌昭法師

右

歌昭法師

流るる水に...  
たのきき...  
文字...  
あふ...  
乃...  
流るる...  
らん...  
と月...

侍... 乃... 曙...  
為... 侍

十七番

左侍

寂蓮

新古今

右

大蔵入道

院人...  
く...  
侍人...  
ま...  
う...  
又た...



右ノ開

~~~~~

二十一番

左 様

孝經初段

十載  
~~~~~

右

顯胎法師

~~~~~

二十二番

左 様

信總法師

新古今  
~~~~~

右

右國法師

同  
~~~~~

二十三番

左 様

女房

十載  
~~~~~

右

経巻初段

~~~~~

右ノ開

三十一

神の御心はまことなることなりて  
御心はまことなることなりて  
御心はまことなることなりて  
御心はまことなることなりて  
御心はまことなることなりて

二十四番 猿

左 傍

陸位 御位

猿のまことなることなりて  
猿のまことなることなりて  
猿のまことなることなりて  
猿のまことなることなりて  
猿のまことなることなりて

右

源三位

猿のまことなることなりて  
猿のまことなることなりて  
猿のまことなることなりて  
猿のまことなることなりて  
猿のまことなることなりて  
猿のまことなることなりて  
猿のまことなることなりて  
猿のまことなることなりて  
猿のまことなることなりて  
猿のまことなることなりて

右はの山をまことなることなりて  
右はの山をまことなることなりて  
右はの山をまことなることなりて  
右はの山をまことなることなりて  
右はの山をまことなることなりて  
右はの山をまことなることなりて  
右はの山をまことなることなりて  
右はの山をまことなることなりて  
右はの山をまことなることなりて  
右はの山をまことなることなりて

二十乙番

左

孝の御位

孝の御位はまことなることなりて  
孝の御位はまことなることなりて  
孝の御位はまことなることなりて  
孝の御位はまことなることなりて  
孝の御位はまことなることなりて

右 傍

源三位

孝の御位はまことなることなりて  
孝の御位はまことなることなりて  
孝の御位はまことなることなりて  
孝の御位はまことなることなりて  
孝の御位はまことなることなりて  
孝の御位はまことなることなりて  
孝の御位はまことなることなりて  
孝の御位はまことなることなりて  
孝の御位はまことなることなりて  
孝の御位はまことなることなりて



こゝれ弱ゆくも悔ふもおとろくぬあゝるを控うくやまれきれ  
たよむし一かまふことほひましく事あらましくあがし  
侍れおれあをまれ弱めつゝく侍るし一音神不  
お似懸隔之上判者愚詠依例不能勝負

二十九番

左侍

師光

千歳

いささういさなぬ物よ方とあゝまねぬ後の世の事いふあはれ

右

常忠

いささううねおろろぬうろろ方うあまねぬふもちれし一  
たよむしあゝまふことほひましく事あらましくあがし  
お似懸隔之上判者愚詠依例不能勝負  
心まあし一侍るし一音神不  
あまねぬ後の世の事いふあはれ

三十番

左持

女房

糸さめてあひつゝぬ方うろろ方うあまねぬふもちれし一

右

仲徳

あまねぬ後の世の事いふあはれ  
たよむしあゝまふことほひましく事あらましくあがし  
侍れおれあをまれ弱めつゝく侍るし一音神不  
お似懸隔之上判者愚詠依例不能勝負  
心まあし一侍るし一音神不  
あまねぬ後の世の事いふあはれ

ち史入る

まろみ浦よまをたらうるを乃まをまをたまひふ海よりあまの那

五

右府



左の流ひりとりは... 浦の月... 三... 七... 八...

左方

女房 後三 指二

季経 初 指一 員二 指一

切利 初 指一

良清 指一

寂蓮 指一 指二

隆信 初 指一 指二

師光 指一

俊惠 指一 指一 員三

別當 指二

皇太后宮右史入道 指一 指五

右方

大貳入道 指三 員二

経家 初 指一

隆 初 指三

忠 指一 員一

名 指三 員一

源三位 初 指二 員二

基 初 指一 員一

仲 初 指一 員一

昭 指一 員三

丹後 右府女房 指二

判者

皇太后宮右史入道 釋阿

時代不同哥合

左

柿本人麿

山邊赤人

中納言家持

參議實皇

中納言行平

僧正遍昭

小野小町

在原業平朝臣

右

大納言經信

法性寺閑白

中納言國信

西行法師

皇太后宮大夫俊成

前大僧正慈圓

正三位家隆

後京極攝政

藤原敏行朝臣

伊勢

元良親王

系性法師

在原元方

延喜

平貞文

中納言兼輔

紀友則

元貫之

丹後

藤原清輔朝臣

中納言定家

修理大夫顯季

中院右大臣

後法性寺開白

大宰大貳重家

中納言俊忠

良暹法師

左京大夫顯輔

凡河内躬恒

壬生忠岑

藤原源等朝臣

大江千里

坂上是則

法原深兼父

蟬磨

法性公

中納言敦忠

齋宮女御

紫式部

源俊賴朝臣

一宮紀伊

藤原雅經

後惠法師

藤原能永朝臣

能因法師

崇徳院

相摸

式子内親王

右近

中務

源信明

藤德公

平兼盛

源順

道經母

大中片純宣

清原元輔

源重之

小式部内侍

花園左大臣

刑部卿範兼

白河院

藤原秀純

寂然法師

小侍從

祝部成仲

藤原隆信物片

寂蓮法師

高内侍

苑山院

惠慶法師

曾祢好忠

源道濟

藤原長純

藤原實方物片

藤原乃位朝臣

中務以具平親王

馬内侍

續政

後津大寺左大臣

藤原基俊

中納言匡房

左近中将公衡

從三位有家

待賢門院堀河

大僧正行高

後鳥羽院

中納言師時

赤深湯門

和泉式部

殷富門院大湯

宮内

左

飛回川のふらふらと流るる水は神さしはらむるはし

柿本人麿

右

夕暮れに門前のさくらをよみてて昔のまらるる花をよみて

大納言煙信

左

あひらの川をよみてはるる水は神さしはらむるはし

右

若草のやうな水は流るる水は神さしはらむるはし

左

まはりの川をよみてはるる水は神さしはらむるはし

右

ささぎの川をよみてはるる水は神さしはらむるはし

左

山崎赤人

あまのこころをいかにせんかきとて

右

法性寺開白

いかにせんかきとていかにせんかきとて

左

いかにせんかきとていかにせんかきとて

右

いかにせんかきとていかにせんかきとて

左

いかにせんかきとていかにせんかきとて

右

いかにせんかきとていかにせんかきとて

左

申納之家持

いかにせんかきとていかにせんかきとて

右

申納之家持

いかにせんかきとていかにせんかきとて

左

いかにせんかきとていかにせんかきとて

右

いかにせんかきとていかにせんかきとて

左

いかにせんかきとていかにせんかきとて

右

いかにせんかきとていかにせんかきとて

左

参議公皇

いかにせんかきとていかにせんかきとて

右

西行法師

降つる... 岩

右

あしひき... 岩

右

あしひき... 岩

右

あしひき... 岩

右

あしひき... 岩

右

あしひき... 岩

右

あしひき... 岩

右

あしひき... 岩

右

あしひき... 岩

右

あしひき... 岩

右

あしひき... 岩

右

あしひき... 岩

右

あしひき... 岩

右

あしひき... 岩

右

あしひき... 岩

寺...

...

皆人々花乃衣よりらりふらり若の袂よりふたせよ

右  
あやまのこころのむかしはてはたしむる縁の結

右  
来り露のしのむや花のこころにたがふらん

右  
糸うぐさささしむるをこめて挑やせしはの野  
小野小町

右  
花乃色はうつりふらり花はよめや世よあつあせし世

右  
下紅糸うちのむすのたけあまの目してやじとらふれあく後

右  
もろこしうらうらあまのふれ人のためはそあつらう

右

松乃こころをこめてあまのむすのこころをこめてあまのむす

右

酒士のこころをこめてあまのむすのこころをこめてあまのむす

右

あまのこころをこめてあまのむすのこころをこめてあまのむす

右

花乃あまのこころをこめてあまのむすのこころをこめてあまのむす

右

右  
あまのこころをこめてあまのむすのこころをこめてあまのむす

右

あまのこころをこめてあまのむすのこころをこめてあまのむす

右















右

浦風よ吹くしの海に雲のこぼるるをよみて

右

東路乃よみよきまのこゝろのこゝろのこゝろ

右

まよひたつたりの海に雲のこぼるるをよみて

右

月夜にうつらふのこゝろのこゝろのこゝろ

右

秋のよれ月よいとあまのつたれをよみて

右

ねむるよれ月よいとあまのつたれをよみて

右

花よれはあまのつたれをよみて

右

とねのつたれをよみて

右

うらみよき海に雲のこぼるるをよみて

右

みよれはあまのつたれをよみて

右

まよひたつたりの海に雲のこぼるるをよみて

右

あまのつたれをよみて

右

ゆき草よきまの浦に花をよみて





右

都より書きたるに、おはせしめ申すに、

右

御書

に、おはせしめ申すに、おはせしめ申すに、

右

御書

に、おはせしめ申すに、おはせしめ申すに、

右

に、おはせしめ申すに、おはせしめ申すに、

右

に、おはせしめ申すに、おはせしめ申すに、

右

に、おはせしめ申すに、おはせしめ申すに、

右

うゝ孫を、おはせしめ申すに、おはせしめ申すに、

右

中納言 敷書

に、おはせしめ申すに、おはせしめ申すに、

右

お模

に、おはせしめ申すに、おはせしめ申すに、

右

に、おはせしめ申すに、おはせしめ申すに、

右

に、おはせしめ申すに、おはせしめ申すに、

右

に、おはせしめ申すに、おはせしめ申すに、

右

に、おはせしめ申すに、おはせしめ申すに、

左

奇宮女侍

神より秋の夕にさしけりて

右

式子内親王

あつひぬ秋もかしの香と

左

なれりとも毎たれどおはす

右

ちしひつる花のまじりて

左

あつあつ秋の夕にさしけり

右

あつあつ秋の夕にさしけり

左

奇宮

あつあつ秋の夕にさしけり

右

小式部内侍

あつあつ秋の夕にさしけり

左

あつあつ秋の夕にさしけり

右

あつあつ秋の夕にさしけり

左

あつあつ秋の夕にさしけり

右

あつあつ秋の夕にさしけり

左

中務

あつあつ秋の夕にさしけり









右

あはれなるはなをみればはなはなをみればはなをみればはなをみれば

花の香

右

あはれなるはなをみればはなはなをみればはなをみればはなをみれば

花の香

右

あはれなるはなをみればはなはなをみればはなをみればはなをみれば

右

あはれなるはなをみればはなはなをみればはなをみればはなをみれば

右

あはれなるはなをみればはなはなをみればはなをみればはなをみれば

右

あはれなるはなをみればはなはなをみればはなをみればはなをみれば

あはれなるはなをみればはなはなをみればはなをみればはなをみれば

右

花の香

あはれなるはなをみればはなはなをみればはなをみればはなをみれば

右

花の香

あはれなるはなをみればはなはなをみればはなをみればはなをみれば

右

あはれなるはなをみればはなはなをみればはなをみればはなをみれば

右

あはれなるはなをみればはなはなをみればはなをみればはなをみれば

右

あはれなるはなをみればはなはなをみればはなをみればはなをみれば

右

あはれなるはなをみればはなはなをみればはなをみればはなをみれば





右

左を中将公衛

指く〜の野の〜と折志を〜の〜目をか〜

左

思ひ〜の〜の〜を〜の〜の〜

右

ま〜の〜の〜の〜の〜の〜

左

才と控して〜の〜の〜の〜

右

回ひ〜の〜の〜の〜の〜

左

藤原を能

ひ〜の〜の〜の〜の〜

右

近三位を能

あ〜の〜の〜の〜の〜

左

何〜の〜の〜の〜の〜

右

ひ〜の〜の〜の〜の〜

左

あ〜の〜の〜の〜の〜

右

あ〜の〜の〜の〜の〜

左

藤原實方朝臣

あ〜の〜の〜の〜の〜

右

行路門院塔河

あ〜の〜の〜の〜の〜

右

~~~~~

右

~~~~~

右

~~~~~

右

~~~~~

右

~~~~~

右

~~~~~

右

~~~~~

右

~~~~~

右

~~~~~

右

~~~~~

右

~~~~~

右

~~~~~

右

~~~~~

Handwritten text in cursive script, first line on the left page.

右

Handwritten text in cursive script, second line on the left page.

右

Handwritten text in cursive script, third line on the left page.

右

殷富門院大捕

Handwritten text in cursive script, fourth line on the left page.

右

赤深湯

Handwritten text in cursive script, fifth line on the left page.

右

Handwritten text in cursive script, sixth line on the left page.

右

Handwritten text in cursive script, seventh line on the left page.

右

Handwritten text in cursive script, first line on the right page.

右

Handwritten text in cursive script, second line on the right page.

右

中納言

Handwritten text in cursive script, third line on the right page.

右

中納言

Handwritten text in cursive script, fourth line on the right page.

右

Handwritten text in cursive script, fifth line on the right page.

右

Handwritten text in cursive script, sixth line on the right page.

右

右

うほろりてきまー信大の杜とるわんcommanの書

右

清むくまの書とるわんの書とるわんの書とるわん

右

くまの書とるわんの書とるわんの書とるわん

右

くまの書とるわんの書とるわんの書とるわん

右

くまの書とるわんの書とるわんの書とるわん

右

くまの書とるわんの書とるわんの書とるわん

右

くまの書とるわんの書とるわんの書とるわん

右

くまの書とるわんの書とるわんの書とるわん

